

平成27年度 東京都立白鷗高等学校・附属中学校経営報告

校長 若井 文隆

本年度重点目標は6期生の進学実績の確保と中高一貫教育の成果検証を踏まえた教育活動の展開にあたった。また、募集・広報活動に力を入れ、応募人数の確保に努めた。さらに、中高一貫教育校として11年を迎え、中高一貫教育校の教科指導の在り方として数学科において実施した教科マネジメントを継続して実施した。教職員一同心を一つにして教育活動に取り組んだが、進学実績は前年度を上回ることができたが、難関国立大学等の合格者に関しては当初目標をクリアすることができなかった。継続して取り組む課題も多く残っており、そのような1年を振り返りつつ報告としたい。

※ Aは概ね達成できた。Bは概ね達成したが今後も継続が必要。Cは達成できなかったのをさらに継続

項目	取組目標	達成時期	結果	達成度	
① 学校運営	ア	中高一貫教育校の検証結果の踏まえた教育活動の継承と、新たな取り組みの策定。	3月	中高一貫教育校としての教育活動には一定の成果が見られた。特別枠募集(数学)の応募要件の見直しを図った。次年度以降は、新実施計画に沿って校内体制の構築と英語教育の在り方を組織的に検討していく。	B
	イ	分掌及び学年、教科での年間目標と年度末の検証の実施。	3月	各教科及び各分掌による年度末の検証を実施し、次年度の取り組みに生かしていく。	B
	ウ	各分掌、教科会における中高の情報交換の促進と統一した指導体制の構築。	3月	中高における各分掌及び教科で連携を図ることはできた。さらに中高が一体化した指導体制の強化を図る。	B
	エ	広報活動、入学選抜等を中心にさらなる経営企画室との連携強化。	2月	中学・高校ともに全教員が協力として広報活動にあたった。中学の受付業務は膨大な量であったが、経営企画室の主導のもと円滑に処理でき、経営企画室と連携強化は図れた。	B
	オ	年間3回の授業研究月間を設定し、全教諭が3回以上の授業見学を実施する。	3月	授業研究月間の設定はできなかったが、教員が意識的に他の教員の授業を見学し授業力の向上に努めた。	B
	カ	大学等との連携を通して、理数教育の充実を図る。	8月	SPP指定校として大学と連携を図りながら校内発表など、各種の発表会で研修成果を発表した。	B
② 学習指導	ア	生徒による授業評価および生徒実態調査を実施し、これらの結果分析を授業に反映させ、次年度の教科目標を策定する。	9月 1月	授業評価における自由意見欄などを工夫し授業改善に生かせるようにした。生徒実態調査は今後も継続的に行い、学校運営に生かしていく。	B
	イ	教科別指導方法の教科内検討会の実施と進捗の分析を行い、教科指導に関するさらなる工夫・改善をおこなう。	2月	数学科において、外部コンサルティングで指摘された部分の改善に取り組んでいる。他教科へ広めていくことが今後の課題である。	B
	ウ	生徒指導資料のデータベースを図る。	3月	成績推奨ファイルが新しくなったが、教務担当者の働きかけで、トラブルもなく移行できた。今後は担当者だけでなく全教員が利用できる体制をつくること。	C

	エ	チュータの有効活用と自習室の充実を図る。	3月	中学・高校ともにチュータの活用が定着してきた。さらに、生徒の要望等に応じた活用を図ること。次年度は、東校舎におけるチュータ	B
	オ	適切な宿題や課題を課することにより自宅学習時間の確保を図る。	2月	1年1時間43分・2年1時間42分 3年1時間35分・4年1時間41分 5年1時間28分・6年3時間16分	B
	カ	英語、漢字などの各種検定に対する年間実施計画の策定。	3月	教科の協力のもと、各種検定は組織的に実施でき、成果もあがっている。英語においては、GTECを全学年で実施し、高いスコアが得られた。国語・数学の検定も計画的に実施した。	A
	キ	学年検討会・センター検討会等4回以上の実施。	3月	検討会は卒業生も含め4回実施した。今後は、トップ層の学力伸長だけでなく、難関私立や国公立受験に向けて、さらに具体的な対応策の策定に取り組む。	B
③ 進路指導	ア	5教科による勉強合宿の実施により、学力の伸長を図る。	8月	5教科での実施は定着し、生徒には国公立受験を意識させた指導を行ったが、参加生徒の意識を更に高めること。	B
	イ	自己の学力把握のための実力テストと模擬試験の実施。	3月	1年から6年までを通した模擬試験計画は出来上がったので、模試の分析など進学指導への活用をさらに図ること。	B
	ウ	長期休業中の補講・補習の参加者延べ8000人以上。	1月	6年55講座4560名・5年13講座1077名・4年12講座1360名・3年11講座1113名・2年8講座869名・1年8講座1270名 総計10249名	A
	エ	国公立大学・難関私大への実質進学者数80名以上。	3月	国公立進学者・難関私大（早慶上理）進学者数 計〇名	A
	オ	難関国立大学等への合格者10名以上。	3月	7名（東大5・京大0・東工大0・一橋大1・横浜市立医1）	B
④ 生活指導	ア	あいさつの励行と時間厳守、制服の着こなし等を基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	3月	制服着用週間を3回設定するなど制服の着用指導にあたりとともに、朝礼や学年集会等を通して規範意識の育成を図ったが、今後も指導を継続的に行い、生活指導の充実を図る。	B
	イ	中高一貫校としての行事の検証と工夫・改善を図る。	10月	学校行事や学年行事を通して、生徒一人一人がリーダーとして活躍できるように指導の工夫を図った。地域連携は良好である。	B
	ウ	自主的・自律的な生徒会、委員会活動とその活性化を図る。	3月	生徒会を中心に防災支援隊を組織し、宿泊防災訓練の進行役を担う。また、生徒会の一部規約改正を行うとともに、ユニセフ募金を実施するなど主体的な活動が行われた。	B
	エ	部活動の活性化を図り、関東大会出場以上3団体、中学では都大会出場3団体以上。	3月	8割以上の生徒が部活動に加入し、上位大会を目指し日々活動している。和太鼓・囲碁・百人一首が優秀な成績を収めた。	B

	オ	年間皆勤者数、学年平均50名以上。	3月	1年49名・2年62名・3年47名・4年84名・5年53名・6年60名(3年間皆勤:46名)合計355名	A
⑤ 募集広報	ア	学習塾等への訪問(外部説明会)30ヶ所以上。	1月	校長のみで12箇所	C
	イ	中学校説明会参加者5000名以上。	1月	学校説明会 約7900名 学校公開来校者 約2850名	A
	ウ	中学校入試倍率7.0倍以上。	3月	6.13倍と目標値には届かなかった。	B
	エ	高校説明会参加者500名以上。	1月	学校説明会205名・施設見学会409名・授業公開450名・外部説明会383名 合計1447名	B
	オ	高校入試倍率1.7倍以上。	3月	1.15倍と低調な結果であった。	C
	カ	ホームページ委員会の充実を図り、内容のさらなる充実と、週に一度の更新ペースを維持する。	3月	HPへの年間アクセス数は約27万5千回に達し、多くの都民の関心を集めることができた。総務部と学年や部顧問との連絡を密にし、定期的にHPの更新を行なった。更に内容の充実を図り、生徒募集に繋げていく。	B
⑥ 健康推進	ア	生徒の状況把握を行う全体会の実施。	2月	専門医による全体研修会は実施できなかったが、学校保健委員会において、校医から様々なアドバイスをいただき、次年度の活動に生かす。	B
	イ	カウンセリングチームによる個別指導の徹底。	3月	管理職、カウンセラー、養護教諭によるケース会議を実施し、生徒の状況把握や生徒理解を図った。	B
	ウ	健康推進のための講演会実施。	3月	専門家を招聘して、生徒を対象とした薬物に関する講話など健康講話を実施し健康推進に努めた。	A
⑦ 情報活用	ア	ICT機器を使った2回以上の授業研究の実施。	3月	ICT機器を活用した授業は定着した。今後はタブレット端末を活用した授業を展開すること。	B
	イ	ICT機器を活用した教職員の情報共有の促進。	3月	プロジェクターが教室設置になり、ICT機器の活用が容易になり、各教員が教材開発には積極的に取り組んだ。	B
⑧ 国際理解教育	ア	海外修学旅行及び海外短期留学の内容の充実。	2月	台湾への修学旅行も2年目を迎え、交流校との交流も充実したものにできた。短期留学は希望者が多いので、生徒のニーズに応えるために、今後更に内容の充実を図る。	B
	イ	国際交流の活性化を図り、留学生等の受入の活性化。	3月	留学生の受入れはなかったが、海外のトルコ・オーストラリア・ドイツ等の4つの学校と文化交流を実施した。次年度も受け入れの態勢の強化を図る。また、次世代リーダー等を含め4名の生徒が留学中である。	B
	ウ	海外の学校との姉妹校提携と具体的な連携の実施。	12月	オーストラリアの姉妹校から1週間のスタディツアーの受入れを行った。また、次年度もスタディツアーを計画しており、受け入れのためのPTを組織し体制を構築する。	B

	エ	日本の伝統と文化理解教育の積極的発信。	3月	中学では校外学習や伝統工芸品製作にかかわる内容を実施し、伝統文化に親しむようにした。また、和太鼓部及び長唄三味線部が文化祭で日頃の成果を発表するとともに、地域のイベントや浅草観光連盟主催の行事にも積極的に参加した。	A
⑨ 地域連携	ア	中学の地域交流15カ所以上。高校の地域交流10カ所以上。	3月	中学校では伝統文化体験6箇所、職場体験48事業所で実施するとともに、高校での交流は約20箇所で行われ、良好な関係が築けた。	B
	イ	大学進学に向けた保護者向け講演会の実施。	3月	双鷗会（本校PTA）と協力し、高校1年生の保護者対象に予備校の講師を招き講演会を実施し、多くの保護者の参加を得た。	A
⑩ 経営企画室	ア	適正な予算執行及び経営計画に基づいた予算計画の策定	3月	企画室予算担当者と教員が連携を図りながら適性に予算策定及び執行を行った。	A
	イ	行政系職員と教員系職員の連携を強化し、円滑な教育活動の推進を図る。	3月	副校長と室長が窓口になりながら、相互が連絡を密に取り教育活動を展開したが、一層の連携強化が必要。	B

主な目標項目と数値目標

項目	目標	対象	26年実績	27年度実績	目標数
②	自宅学習時間	中学生	1時間41分	1時間40分	2時間以上
		高校生	2時間15分	2時間11分	2.5時間以上
③	進路決定	国公立大学・私立難関校 (早・慶・上・理)	合格者101名	合格者128名	合格者120名
		進学者数	進学者58名	進学者〇名	進学者80名以上
		難関国公立大学等合格者	4名	7名	10名以上
③	夏季講習参加者	中学生	延べ1975名	延べ3743名	延べ500名
		高校生	延べ6193名	延べ7087名	延べ2000名
④	皆勤者数	中学、高校学年平均	平均64名(1~6年)	平均名(1~6年)	50名以上
⑤	説明会等参加者	中学校	9436名	10750名	4000名以上
		高校	1789名	1447名	500名
⑤	一般入選倍率	中学校	6.47倍	6.13倍	7.0倍
		高校	1.72倍	1.15倍	1.7倍
⑨	地域交流	中学校	59ヶ所	54ヶ所	15ヶ所以上
		高校	18ヶ所以上	20ヶ所以上	10ヶ所以上